

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第19回）

JICAの教科書開発が新聞に掲載されました！

1月23日付のミャンマー最大の政府系英字新聞「Global New Light of Myanmar」紙にJICAの教科書開発協力の記事が掲載されました。参考までに記事の和訳を以下に書き添えておきます。

JICAと教育省が2017-2018年度小学校1年生用カリキュラムを開発

日本政府の海外援助機関である国際協力機構（JICA）が教育省との協力の下、2017-2018年度の小学校1年生用カリキュラムを開発した。政府によれば、新しいカリキュラムは2016-2017年度から幼稚園教育（KG）でまず導入される予定である。JICAによる小学校1年生用カリキュラムの開発は、新カリキュラムの下で学んだ幼稚園児が、引き続き、新しいカリキュラムの下での教育を受ける道を開くことを意味する。カリキュラム委員会のメンバーの一人、ウィンアウン氏はインタビューで次のように述べた。「JICAの技術協力のおかげで、新カリキュラムで学んだ幼稚園児たちは小学校に上がっても引き続き、新カリキュラムの下での教育を受けることができる」。

教育省によれば、幼稚園カリキュラムもJICAとミャンマー教育専門家によって、およそ3年を要して完成したということである。パズダン地区に住むある母親は、「新カリキュラムが導入されることは歓迎すべきことである。しかし、この導入が単なる新カリキュラムの試行テストに終わってほしくない。現場の先生方には何が何でも新カリキュラムを使って教育の質を上げるという強い意志をもって実践してもらいたい。こうすることで、我が国の教育もようやく国際レベルに達すると思う。今後、保護者に対してもっと新カリキュラムについて啓発することが重要である」と述べている。



この記事には、誤った部分（傍点部分の記述）も見られますが、少なくともミャンマーの方々からは新しいカリキュラムに大きな期待がかけられていることが分かります。こうした人々のためにも、よいカリキュラム・教科書を作っていきたいと思います。

「新カリキュラムのゆくえ」、現政権と新政権の間に意見の相違が！

1月22日付「デイリー・イレブン（Daily Eleven）」紙に、新政権を指揮する国民民主同盟（NLD）のスー・スールイン氏（教育担当）の新カリキュラムについての意見が掲載されました。この記事によれば、彼女は「新カリキュラムの導入が計画されているが、これは慎重に検討すべき事項であり、決して急いで実施すべきものではない」、「現政権は新カリキュラムを来年度から導入する予定であるが、試行テストもせずいきなり導入すべきではないと考えている。我々は、過去の失敗について今一度再検討し、二度と同じ失敗を繰り返さないようにしなければならない」と述べています。

彼女が言う「過去の失敗」とは、1970年代～80年代にかけて行われた教育の質的向上を目指した全国規模の研修を指しています。この時、英語についてはヒアリングと会話力の重要性が強調され、生徒にそうしたスキルを習得させるようなカリキュラムの導入が目指されたようですが、全く成果を上げずに終わったということです。彼女によれば、この失敗は、英語カリキュラムにあったというより、教員の能力の低さが原因であったということです。したがって、今回の新カリキュラムの導入におい

て、いくら質の高いカリキュラムや教科書を開発しても、教員の質が現状のままでは普及することは難しいだろうというのが彼女の言いたいことようです。

これに対して、教育省の次官ソーウィン氏は1月23日、JICA本部で、「新政権が今の方向性を大きく転換することは不可能であると考えている。というのも、NLDを含む野党はすでに教育基本法に合意しており、現政権ではこの方向に沿って改革を進めているからである。したがって、我々は何も心配していない」と述べたということです。

今年度も小学校修了試験及び中学校修了試験、実施予定！

昨年度から開始された小学校5年生と中学校4年生を対象とした修了試験ですが、昨年3月に初めて実施されたところ、生徒の約30%近くが不合格となったという結果を受けて、全国の保護者から大きな反発が出されていました。その後、学校側はミャンマー正月明けの4月末から5月にかけて不合格生徒を集めた集中補習を行い、その結果、ほぼ全員を合格として卒業・進学させたということです。ただ、保護者からかなり強い反発が教育省に出されたこともあって、教育大臣は関係者に対し、「来年度からは修了試験はしない！」と強く主張されていました。

ところが、先日入手した最新情報によると、今年度も引き続き修了試験を実施するということが決定されたようです。しかし、驚くべきことに、補習や再試験は行わないことになりました。すなわち、今年度は、修了試験に不合格になれば、即留年になるのです。小学校や中学校の先生方は、連日、保護者を集めてこの決定についての周知を行われているようですが、生徒にとってはもちろん、教師や学校、それに保護者にとっても大きなプレッシャーになっているようです。

インパクト調査、実施決定！

昨年末にCREATEで「インパクト調査」を行うことになりました。これは、旧カリキュラムで学習した生徒に比べて、新しいカリキュラムの下で学習した生徒の能力はどのように変化したかをデータとして残しておくことが必要であるという考えに基づいて、急遽、計画されたものです。当然、こうした能力を正確に測り、比較することは、非常に困難であり、なかなかデータで示しにくいということもあるのですが、何もデータがないというのも問題であるという意見などが関係者から出されていたこともこの調査実施に踏み切った一つの理由です。今年度はまず、小学校1年生を対象に、生徒の数的操作能力に焦点を絞り簡単な筆記テストを実施するとともに、教員の意識について質問紙を用いて調べることになっています。サンプル数は、生徒が1万人、教員が400人程度で計画しています。

この調査実施において、CREATEではリサーチャーを4名雇用し、現行スタッフ2名とともに、来月から全国からランダムに選んだ4地域で調査を行う予定です。

文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）

編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）